

佐藤啓太郎・一冊の会最高顧問のアフリカ講演

2月28日は春の訪れを間近に感じるような青天。第2回櫻華塾、会場を尾崎行雄記念財団で開催しました。今回は、佐藤啓太郎元タンザニア連合共和国全権大使より、「アフリカ」をテーマにご講演いただきました。第6回アフリカ開発会議(TICADVI)を夏に控え、大変お忙しい合間を縫ってのご講演はととても貴重なものです。佐藤大使のお話を聞きたいと熱望する多くのメンバーが集まった為、いつもの応接室を飛び出して、オープンスペースでの開催となりました。一時間半に及ぶ佐藤大使のお話は、しっかりとした記録として残す為に、現在、作業が進行中。今回の万葉では参加メンバーの感想を抜粋してお伝えいたします。



+++++

◆新井明子(みょうこ)さん

TICADの会議第1回から今日まで、全てに参加している大槻会長がまとめた資料をいただきました。第3回では「TICAD10周年宣言」、第4回では常任理事国改革案の協力要請、第5回で「援助から投資」を目指す会議へ発展しています。次回は初めてアフリカで開催されることが決定しております。今後、益々TICADの重要性が高まっていくことを感じました。佐藤大使のお話で、アフリカでは10km圏内の行動範囲で生涯を終えるような方もいると聞きました。自分の今の生活からは想像もできないことです。一冊の本、一本の鉛筆を送る一冊の会の識字活動・50年間の実績は大変尊いものだと思います。私も一冊の会を誇りに、自分がその一員であることを自負していきたいです。

◆瀬澤伸子さん

佐藤大使のお話からアフリカの定義は難しいのだと知りました。東アフリカの人に日本のことを伝えるのは難しかったそうです。それは、日本の小学校6年生レベルの教育が受けられない人も多いからでした。世界地図すら見たことがないので、日本がどこにあるかもわからないのです。一冊の会がタンザニア共和国に建てたさくら幼稚園やイララ幼稚園のような支援はまさに平和への歩みの証です。日本には日本の良さがあります。三寒四温といいますが日本の四季が日本人の感性を育ててきました。日本人としての感性を更に磨きながら、平和を担う一人に成長していく決意です。

◆山内聖士さん

佐藤アフリカ大使のお話は、穏やかに話されながらも、赴任されたタンザニアをはじめ、アフリカ諸国に対しての大きな思いを肌で感じることができました。人類が誕生した地がアフリカです。最初の人類「ホモ・サピエンス」がどのような思いでアフリカを出たのか、新天地を求めて希望に溢れていたのか、住む地が無くなって必要に迫られての移動だったのか。今となっては分かりませんが、自分の遠い祖先が出発した地を目に感動された佐藤大使のお話に、私もどこ懐かしい思いがいたしました。母なる大地・アフリカに、私も思いを馳せながら、しっかりと学び、支援していきます。

◆椎名節子さん

アフリカは一括りにするのが難しく、タンザニアだけでも部族が130あるということに驚きました。貧困、紛争など様々な問題を抱えるアフリカ。貧しくてボロボロの服をまとっていても、朗らかに笑う様子にとっても感動する。一日二食だろうと目をキラキラさせていて、いまだきの日本の子どもに少ない敬意や礼儀がある。と、佐藤大使はおっしゃいました。今の日本が失いかけているものがここに表れているような気がしました。物資は豊かになった日本ですが、これからは心の豊かさにスポットをあて、アフリカと日本が共に明るい未来を歩めるよう、日本人として私に出来ることを考えていきます。

◆赤田美香子さん

日本では国が必要な支援を細かく調査し、開始する頃には世の中が変わっている、というお話に、日本人の持つ「きめ細やかさ」と裏腹の悪い面が出てしまっていると感じました。また、アフリカでは感染症に対する理解がないため感染が広がりやすいそうです。保健に携わる者として、感染症への理解を進めていくことが悲惨な死を減らしていくことに繋がると強く感じます。一冊の会は、「すぐやる」をモットーに活動しています。ますます迅速に動く一冊の会であるよう、私達の世代が頑張っていかなければと思いました。

◆村岡清佳さん

第二回目の櫻華塾の開始時に大槻会長から、私達若手がこれから先の人生で勝利者コースを走る為に、一冊の会の大先輩の皆さんを先頭に沢山の先輩方が『伴走者』として私達を支え続けたい、というお言葉を聴き大変身の締まる思いでいっぱいになりました。

私達の尊敬する大伴走者のひとりとして世界観を広げて下さったのは佐藤大使です。佐藤大使のアフリカ大陸への駐在、お仕事を通じての、アフリカへの想いとして一番心に残ったのは、今アフリカに必要なことは『教育』ということです。アフリカ大陸にはまだ世界を知らない人が大勢いて、『知らない』ということが、時に内紛を引き起し、人々の生活は貧困化し、命を脅かす感染症発症へ繋がるという悪のサイクルを引き起しているのだと感じました。一冊の会は昔から識字教育の活動に取り組んでおります。先輩方の『教育』そしてアフリカの子供たちの未来への願いを再認識致しました。世界をみて日本を観て、今自分が何を出来るかを考える、相馬雪香先生のお言葉を常に自分の心に置き、これからも櫻華塾で人生の先輩方との対話から沢山のことを学び、感じとり、精進して参ります。

◆瀧川紗智子

佐藤大使のお話しされたタンザニアから日本を見た「視点」は私の世界を広げてくださいました。視点を多く持つことと、相馬雪香先生の「世界から日本をみる」とのお言葉が繋がりました。その一方、民主主義により価値観が一つではなくなった結果、民衆が指導者に従わなくなり、内乱が生じて5～6年で20万人が亡くなったそうです。民主主義も一つ間違えれば、自己の権利だけを主張する利己主義に陥ったり、自分でよく考えず周りに流され政治利用されてしまったりすることもあります。自分で考え、自らの信念に基づいて行動する大切さはどこでも変わらないと感じました。恵まれた日本にいるからこそ私達は学び続けることができます。例え地図では日本から遠い国であっても、心は近く、私たちに何が出来るかを考えて参ります。

編集・文責：大槻、小山、瀧川